

昨年暮れ、ある有名漫画家が、たまたま泣き止まない乳児と同じ飛行機に搭乗した際、「うるさい」と航空会社にクレームを入れ、さらにその一部始終を記事にして問題提起したつもりが、逆に彼のほうが著名人らを中心に各方面から集中砲火を浴びてしまったことがあったが、その内容が実に興味深い。

脳科学者の茂木健一郎氏は「1歳の赤ちゃんのふるまいを、コントロール出来ると思っている大人がいることが信じられない」と言えば、弁護士の落合洋司氏は「気持ちはわかるが赤ちゃんが泣くのは仕方ないのでは。昔から、泣く子と地頭には勝てぬ、いうくらいで」と発言。さらに、音楽プロデューサーのつんく氏のコメントが胸を打つ。「15年前飛行機で離陸から着陸まで泣いてた赤ちゃんのママと目が合った。『すいません。疲れてはるのに居眠り出来なかったでしょ』って。『いえいえ、2時間泣いてたこの子が一番がんばった。エライエライ』って言ったらママさんが涙はった。今ならこのママさんの涙の意味がわかる。子供は泣くさ」と。作家の乙武洋匡氏も「大人が我慢するか、子供に我慢させるかではなく、その光景を微笑ましいと思える大人になりたいな」とも。

最後にキリストの話。

「さて、イエスに祝福していただくのと、人々が、子供たちを連れてやって来ました。ところが弟子たちは、邪魔だとばかり、彼らを追い返そうとしました。それをごらんになったイエスは、弟子たちをひどく叱りつけました。『子供たちを、自由に来させなさい。神の国はこの子供たちの様な者の国なのだ。追い払うなど、とんでもない。』（中略）それから、子供たちを抱き上げ、頭に手を置いて、祝福されました。」

マルコの福音書 10章 13-16節：LB。

子供は祝福であり愛すべき存在であるのに議論の余地はないが、イエスはさらに一歩進める。何と、天国と子供に対する大人の態度とは関係があるのだ。実は神から見れば我々人類全てが子供であり、いつも愛しておられる。だからこそ神は人類に救い主を送って下さった。したがって、我々も子供たちや弱い人たちを愛さなければならないということだ。



www.shutterstock.com · 85134610